

中央区

日時：平成26年2月1日(土)
場所：熊本大学文学部棟

「人間力ってなんだろう?」

熊本市中央区PTA連絡会の研究大会が、2月1日(土)に熊本大学文学部棟で「人間力ってなんだろう?」の大会テーマで開催され、約250人の会員が出席しました。全体会ではコーディネーター原口理加氏とパネリスト4人(分科会講師らと壺川小学校教頭 佐藤俊幸氏、中央区PTA連絡会代表幹事 緒方玲子氏)とのパネルデス



カッション形式で進められました。保護者は過去5年間で、子どもたちは過去2年間で「最近どんな力が身に付いたか?」を振り返り、将来どんな「人間力」を身に付けていくかを出席者も参加しながら意見交換しました。その後、三つの分科会に分かれて、各方面でご活躍の講師の方々より、実体験に基づきいろいろな視点から「人間力」を高める心に響くアドバイスを頂きました。

第一分科会

「やる気になっちゃうコーチング」
コーディネーター 原口 理加氏

第二分科会

「聞く力、考える力、書く力、伝える力が身に付き、生きる勇気をくれる飛耳長目録」
九州学院高等学校 空手部 部長兼監督 日吉 伸孝氏

第三分科会

「いのちと向き合う」
「むかえびとからのメッセージ」
開業助産師 村上 恵理氏
全体会や各分科会での様々なアドバイスや他会員との意見交換が、改めて子育てを考え直す良い機会になったという参加者が多かったようです。各校PTAやご家庭で活かされますよう期待します。
(託麻原小 赤星 文比古)



北区

日時：平成26年1月25日(土)
場所：食品交流会館フードパル

「私は、あなたのために何ができるのでしょうか」

講師：新本高志氏(トタン屋根のケーキ屋さん)

赤い自転車のケーキ屋さん。「トタン屋根のケーキ屋ア・ラモート」さんです。皆さんも一度は姿を見かけたり、パウンドケーキを買ったりしたことがあるかもしれません。

その新本さんご自身の体験談を笑いを交えながら、優しい語り口でお話いただきました。

特にPTAでの研修ということから、「自分の子どもが通っているだけの学校ではない。私たちも子どもと一緒に入学した」、「私たち親はお世話になる学校のために、P

TAのために何ができるのか、「うちのために何かをしてあげてはどうか、あなたのために何ができるのか」と私たち親の立場からのお話がありました。

また自分の行動に見返りを求めない「無償の行為」はきれいな見られるかもしれないが、周りに「感謝」の気持ちをもった時にはきつと現れてくれる事であると教えられました。

このことは私たち親がそれを行動して見せることで子どもたちに



は伝わっていくのだと思います。講演の後、私もパウンドケーキを食べ、心もお腹も満足な一日となりました。
(北部中 前川 真由美)

東区

日時：平成26年1月25日(土)
場所：熊本市東部公民館

「感謝」〜奉仕が感謝に繋がる〜

講師：ふじやま 英美氏
(熊本市議会議員 元桜木中PTA会長)

平成25年度の東区PTA連絡会研修会が1月25日(土)に東部公民館にて開催されました。研修会のテーマは「感謝」、演題は「奉仕が感謝に繋がる」

講師は桜木中学校初代PTA会長を務められ、その他自治協議会会長等々を肩書にもたれている、熊本市議会議員のふじやま英美氏

PTA活動は、子どもがお世話になるから行うものではないか?子どものために行動をするものでしょうか?と問題提起がありました。続いて、「奉仕の心をもって、自分ができるときに活動に参加する。その積み重ねがお互いの

感謝に繋がっていく」との話があり、そのような地域活動の精神を大切にしていきたいと感じました。
(東町小学校 田上 哲也)



西区

日時：平成25年10月5日(土)
場所：熊本市西部公民館

現代の子育てで、特に大切なこと

講師：岡崎光洋氏
(くまもと心理カウンセリングセンター代表)



今年度の西区研修会では、岡崎光洋先生をお招きし、「現代の子育てで、特に大切なこと」というテーマで講演を行っていただきました。

岡崎先生の講演では「日常の対人関係の中で、心が鍛えられる」「便利が子どもを育てているのではなく、困難が育てるのである」というお話を伺い、便利になっていく社会が必ずしも子どもたちのために



よい影響を与えているわけではなく、現代の子育ての難しさを実感しました。今後はこの「困難が人を育てる」ことを意識して子どもに接していく事を大切にしていきたいと感じた研修会でした。
(春日小 大倉 正浩)

南区

日時：平成25年10月12日(土)
場所：力合中学校

保護者のための携帯講座

講師：井出宏昭氏(熊本市立江原中学校教諭)

10月12日(土)に井出宏昭先生を講師にお招きし、「保護者のための携帯講座」〜LINEその利便性と危険性について〜と題した講演会に約80名が参加しました。

中・高校生を中心に爆発的にユーザーが増え、最近では小学生も増加傾向にあるLINEについて、問題点や学校・家庭での対応のポイントをお話いただきました。

LINEとは友達間でのコミュニケーションを円滑にしたり「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築するなどのサービスであるはずが、そのLINEを利用した犯罪や問題が急増している。

具体例としては、仲間外れなどのいじめにつながることや、家出につながる、不適切な画像や動画の拡散などがあげられる。実際LINE依存性?のように、常に端末を身につけていないと気分が落ち着かない
●LINEのことが気になって勉強に集中できない
●夜更かしによる健康問題
など、成長段階の子どもたちには深刻な問題である。

また、我が家はスマホを持たせてないので大丈夫、と思われている保護者も多いが「携帯ミュージックプレイヤー」でインターネット通信が可能なものがあり、中学生では



それらを使用しているケースも少なくない。親には音楽を聴くためと伝え購入し、使用する際料金が発生しなければ気が付くが遅れるのは当たり前である。こどもは大人の数年先を歩いているというのが現状である。
ネット社会である今日、子どもたちがパソコンや携帯電話などに触れる場面が多くなるのは当然である。そのなかで学校だけを頼りにするのではなく親である私たちが常にアンテナを張り巡らして情報収集することが大切なのではないかと思えました。
(川尻小 浦田 久美子)

各区PTA連絡会 研修会開かれる